

事務事業名	健康フェスティバル開催事業				担当	健康福祉部 健康増進課 成人健康係			
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり				増補版施策名			
施策名	6	健康づくりの推進				☐ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画	真岡市健康 2 1 ブラン 真岡市食育推進計画				事業期間	☐ 単年度のみ			
法令根拠	健康増進法					☒ 単年度繰返（開始年度 昭和59 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1保健衛生費	3保健指導費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	保健事業の一次予防として子供から高齢者までの健康意識の高揚を図るとともに、健康の保持増進のために、生活習慣を見直す機会とする。毎年10月の第4日曜日に開催。関係機関（県東健康福祉センター・歯科医師会・薬剤師会・芳賀赤十字病院）や食生活改善推進員等の協力を得て、総合福祉保健センターを会場に健康相談や親子の歯科相談など、各コーナーを設け実施する。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 30年度実績 ・周知方法：ウィークリーニュースもおか・ホームページ、ポスター掲示、チラシ配布。 ・内容：ラジオ体操、姿勢のゆがみ測定、骨密度測定、出張まちなか保健室コーナー、フッ素塗布、食改自主事業（豆運びゲーム、食育かるた等）、手洗いチェック、アロマオイルハンドマッサージ、なりきり写真コーナー、ふまねっとコーナー。 開催日：H30. 10.28（日） 31年度計画 ・周知方法：H30年同様 ・内容：ラジオ体操、姿勢のゆがみ測定、骨密度測定、出張まちなか保健室、食改自主事業、運動推進事業、介護予防事業コーナー。 ・開催日：R1. 10.27（日）会場は総合体育館で実施する。				⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
				名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)
				ア 参加者数	人	800	400	200	243	300
				イ 催し物の数	人	17	15	9	13	13
				ウ						
				エ						
				オ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等 市民				⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
				名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)
				ア 市民数	人	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324
				イ						
				ウ						
				エ						
				オ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 健康意識の高揚を図る。				⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
				名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)
				ア フッ素塗布受診者数（定員60名）	人	62	39	0	33	0
				イ 骨密度検査受診者数（定員100名）	人	95	96	100	93	100
				ウ						
				エ						
				オ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 健康な状態で生涯を楽しく過ごしてもらおう。				⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
				名称	単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)
				ア 健康で元気に暮らしていると思う市民の割合	%	83.5	83.9	82.9	82.8	83.0
				イ						
				ウ						
				エ						
				オ						
(2) 総事業費の推移					単位	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(実績)	30 年度(実績)	31 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	378	296	287	322	361	
			事業費計（A）	千円	378	296	287	322	361	
	人件費		正規職員従事人数	人	30	30	30	30	30	
			延べ業務時間	時間	556	556	556	556	556	
			人件費計（B）	千円	2,330	2,309	2,307	2,318	2,318	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	2,708	2,605	2,594	2,640	2,679	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等										
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？		昭和59年度総合福祉保健センターの開設を契機に、保健センターのPRと、市民の健康意識高揚のために開始した。								
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？		・平成25年度、血液センターと連携し、献血のPRを行った。 ・平成26年度、真岡市制60周年記念事業とし、「姿勢のゆがみチェックコーナー」を特設した。 ・平成27年度、新規コーナーを多数設けたことと周知を徹底したため、約800人の方に参加してもらうことができた。 ・平成28年度、開始時間を15分早めた。 ・平成29年度、衆議院選挙の日程と重なり、日程を変更し開催したためか、フッ素塗布など開催できない コーナーもあり参加者数が減少した。 ・平成30年度、好評であったコーナーの他、認知予防やフッ素塗布などを取り入れ幅広い年代の健康について情報提供できるように実施した。								
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		関係機関からも盛況であり参加者層も幅広いため、健康づくりを普及する場として良かったとの評価があった。また、市民からも「ゆがみは測定したい」との声が寄せられた。平成30年度は保険者努力支援制度の要素を取り入れ重複服薬者においても実施した。								

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 市民の健康意識を高めることは、市の施策に結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 市民の健康づくりの推進は、市の基本理念に結びつくため妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☐ 適切である ☒ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 子どもから高齢者までの市民を対象としているが、成年期・壮年期・高齢期に対象を絞ることで成果向上が期待できる。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地はない ☒ 向上余地がある 対象を絞ることで向上が期待できる。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 市民の健康意識の高揚の機会が減る。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない 類似事業はないが統合及び連携については次のことが考えられる。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☒ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない 骨密度検査は年26回女性がん検診、年5回のヤング健診で実施している。 フッ素塗布は4歳児歯科検診時に実施する他、芳賀都市医師会の事業として年1回実施している。 その他の健康についての催し物は、地域公民館まつり等において健康づくりコーナーとして、実施している。 （大内公民館まつり、山前公民館まつり、二宮公民館まつり等）
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の事業費で実施しているので、削減はできない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人件費で実施しているので、削減はできない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 市民全体が対象であり、公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☒ 見直し（ ☒ ：目的妥当性 ☒ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☐ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上		○																						
	維持																								
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☒ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								